

変圧器用ダイヤル温度計の自発光性塗料塗布部のご説明及び変圧器からダイヤル温度計を取り外す手順について、以下にご説明致します。

## 1. 変圧器用ダイヤル温度計 自発光性塗料塗布部のご説明

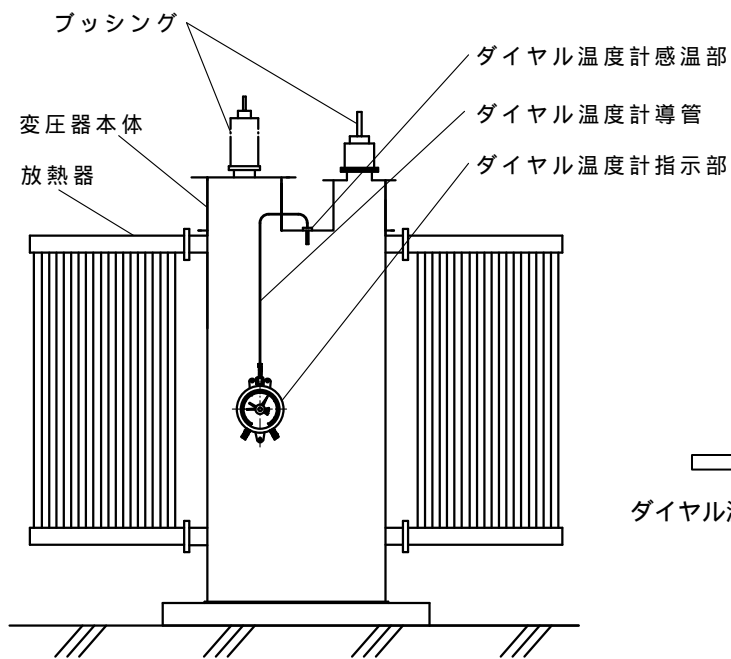


図 - 1 変圧器用ダイヤル温度計 取付け位置

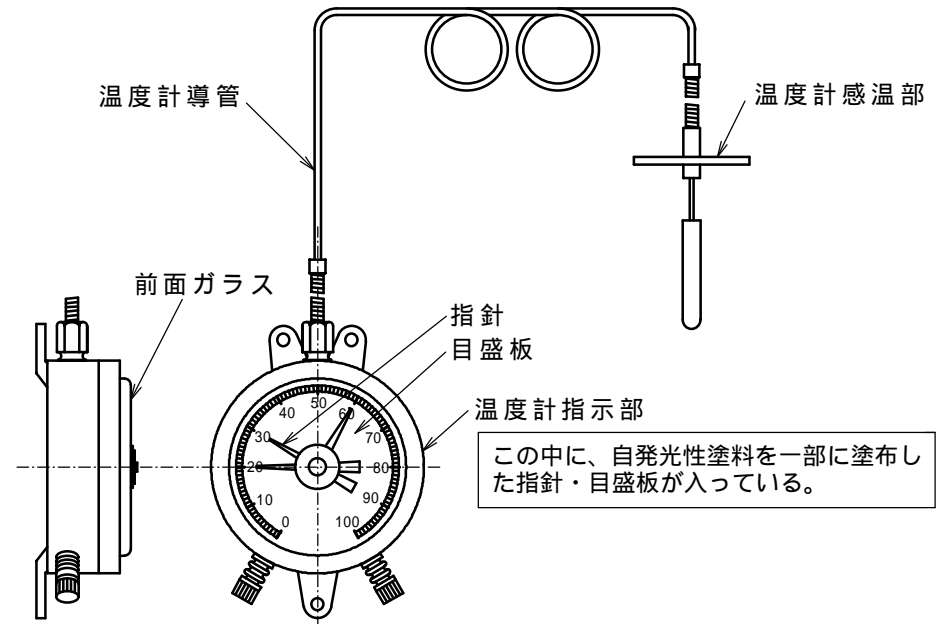


図 - 2 変圧器から取り外した状態のダイヤル温度計

## 2. 変圧器からダイヤル温度計を取り外す手順のご説明

ダイヤル温度計を変圧器から取り外す手順を下記にご説明致しますので、お客様の方でダイヤル温度計の取り外しをお願い致します。

**【作業上のご注意事項】** ダイヤル温度計の前面ガラス(プラスチック)は、破損させないように取り扱って下さい。

作業手順	作業名	作業内容	参照図
1	変圧器を停止する	作業の安全のために変圧器を無課電状態とする。 但し、気中ブッシング等の充電部が露出していない場合は、変圧器を停止する事なくダイヤル温度計の取外しは可能です。	-
2	警報回路を切り離す	作業中に誤警報を発生しないように、ダイヤル温度計 警報回路の元電源を切り離す。	-
3	ダイヤル温度計を変圧器から取り外す	[ 手順 3-1 ~ 手順 3-3 ]	-
3-1	警報リード線を取り外す	ダイヤル温度計指示部に繋がっている警報用リード線を解線する。 解線した電線末端は、絶縁処理を施す。	図 - 3
3-2	感温部を取り外す	変圧器タワ上部にある、ダイヤル温度計感温部取付けボルトを外し、感温部を変圧器本体から取り外す。	図 - 4
3-3	ダイヤル温度計指示部を取り外す	ダイヤル温度計を感温部を含め変圧器から取り外す。 【 上記 図 - 2 の状態とする 】	図 - 5
4	ダイヤル温度計取外し後の変圧器側の処置	[ 手順 4.1 ~ 4-3 ]	-
4-1	代品ダイヤル温度計がない場合	感温部取付けフランジ部にガスケットを介して、カバー板を取り付ける。	図 - 6
4-2	代品ダイヤル温度計がある場合	代品ダイヤル温度計( )を取り付ける。[ 手順 4-2-1 ~ 4-2-3 ] 図 - 3 ~ 図 - 5 の逆手順で作業を行う。	-
4-2-1	ダイヤル温度計指示部を取り付ける	ダイヤル温度計指示部を変圧器に取り付ける。	( 図 - 5 )
4-2-2	ダイヤル温度計感温部を取り付ける	ダイヤル温度計感温部を変圧器タワ上部の温度計感温部ボルトに取り付ける。	( 図 - 4 )
4-2-3	警報リード線を接続する	警報用リード線を温度計に接続する。	( 図 - 3 )
4-3	警報回路の復旧	ダイヤル温度計の警報回路を復旧する。	-
5	チェックと点検	ダイヤル温度計取替え後のチェックを行い、問題の無いことを確認する。	-
6	変圧器の運転再開	変圧器の運転を再開する。	-
7	取外したダイヤル温度計の処置	ダイヤル温度計を梱包し発送する。 【 梱包 発送方法をご説明する別資料を参照下さい 】	-

( ): 代品ダイヤル温度計 [ ご用命があれば、弊社で手配致します ]

変圧器タワ側のフランジは容易に変更出来ませんので、代品ダイヤル温度計の感温部フランジ形状は、元々取り付いているダイヤル温度計の感温部と寸法互換性を有するものをご使用下さい。

又、ダイヤル温度計指示部は取り付けに互換性が無い場合、取付けアダプターが必要となる場合があります。

# ダイヤル温度計取外し手順 参照図

